

氏名	妹尾 敏 伸		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1691 号		
学位授与の日付	昭和61年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	温泉浴の生理機能に及ぼす影響 第 1 編 血漿代謝物質に及ぼす温泉浴の影響 第 2 編 血漿副腎皮質ホルモン値に及ぼす温泉浴の影響		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 長島秀夫	教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

温泉療養の際には、生体には温泉地の環境因子などと共に、温泉水による温熱、静水圧そして温泉水中の含有成分の作用等がもたらされる。これらが総合して非特異的的刺激として働くことにより、生体に変調をおこし、生理機能を改善していくものと考えられている。この場合、含有成分がどのように関与しているかの説明はなお十分ではない。変調作用は主に神経系と内分泌系を介して行われることから、三朝温泉連浴と水道水連浴のこれらの系に及ぼす影響を、ラットを用いて比較検討した。まず、血中カテコールアミン（以下 CA と略す）を中心に 2、3 の代謝物質を測定して交感神経 - 副腎髄質系への影響を検討すると、4 週間の温泉連浴群では水道水連浴群に比較して交感神経 - 副腎髄質系の機能の低下傾向が認められた。血中 CA 値と糖、脂質代謝との間に関連は認められなかった。さらに血中 11-OHCS の日内変動を指標として、内分泌系に及ぼす影響を検討すると、4 週間の温泉連浴では水道水連浴よりも効果的な血中 11-OHCS の日周リズムの正常化作用が示唆された。

論文審査の結果の要旨

温泉浴の生理機能に及ぼす影響は神経系と内分泌系を介して行われることから、ラットを温泉連浴群と水道水連浴群とに分けて血中カテコールアミンを中心に 2、3 の代謝物質を測定したところ温泉連浴群で交感神経 - 副腎髄質系の機能の低下傾向が認められ、また血中 11-OHCS の日周リズムのより効果的な正常化作用もみられた。

これらの成績は温泉浴の生体に及ぼす影響の一部を明らかにしたもので臨床的にも有意義と考えられ、よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。